

## 第8回グローバルヘルス政策研究センターセミナー 開催のお知らせ

来る2017年9月19日、第8回グローバルヘルス政策研究センターセミナーを開催いたします。今回は、国立国際医療研究センター（NCGM）AMR臨床リファレンスセンター 情報・教育支援室長であられる具 芳明先生を講演者にお迎え致します。講演は「感染症から未来を守る ～抗菌薬と薬剤耐性菌とその周辺～」と題して、グローバルヘルス分野でも世界的に大きな課題の一つである薬剤耐性菌問題についての先生のこれまでの精力的、かつ先進的研究や、日本そして世界での現状対策についてお話頂きます。多くの方々のご参加を心よりお待ちしております。

**日時** 2017年9月19日(火)12:30～14:00

**会場** 国立国際医療研究センター・研修センター棟1階 グローバルヘルス政策研究センター

**テーマ** 感染症から未来を守る ～抗菌薬と薬剤耐性菌とその周辺～

**言語** 日本語(通訳なし)

**定員** 40名程

**参加費** 無料 事前登録不要

講演内容：

感染症から未来を守る ～抗菌薬と薬剤耐性菌とその周辺～

薬剤耐性菌問題は世界的な公衆衛生上の問題と考えられるようになっており、ペニシリンが実用化されて70年余りしか経っていないにもかかわらず、有効な抗菌薬が失われてしまう事態さえ懸念されている。日本でも薬剤耐性（AMR）アクションプランが2016年に発表されて取り組みが始まった。抗菌薬と薬剤耐性菌の周辺でおきていることを紹介し、抗菌薬を未来に引き継ぐためにできることを考えたい。

講師のご紹介：

具 芳明（ぐ よしあき）先生

国立国際医療研究センター病院 AMR臨床リファレンスセンター 情報・教育支援室長

1997年 東京医科歯科大学医学部医学科卒業。佐久総合病院にて地域医療を実践した後に静岡県立静岡がんセンターで臨床感染症を学んだ。国立感染症研究所実地疫学専門家養成コースを経て、2011年東北大学に赴任、感染症診療に加えて地域連携や薬剤耐性菌対策に取り組んだ。2017年4月より現職。

関連資料：

- SAVE antibiotics, SAVE children ～抗菌薬啓発週間 2015～
- 世界に広がる薬剤耐性菌，日本が取るべき行動とは：「アクションプラン」発表と抗菌薬適正使用への道筋
- WHO “Evaluation of Antibiotic Awareness Campaigns”

## 第8回グローバルヘルス政策研究センターセミナー 開催報告

去る2017年9月19日、「第8回 グローバルヘルス政策研究センターセミナー」を開催致しました。今回は国立国際医療研究センター（NCGM）AMR臨床リファレンスセンター情報・教育支援室長であられる具 芳明先生をお招きし、「感染症から未来を守る — 抗菌薬と薬剤耐性菌とその周辺」と題したご講演をしていただきました。薬剤耐性菌（AMR）問題は保健医療に留まらず、環境問題や農林・畜・水産業界においても深刻な課題となっており、グローバルヘルス分野でも世界的に問題視されています。近年、薬剤耐性微生物による死亡者数は年間70万人に達し、2050年頃までには約1,000万人にも膨れ上がると予測されています。

新たな抗菌薬の開発が低迷しAMRへの早急な対策が求められる中、厚生労働省・国際的に脅威となる感染症対策関係閣僚会議は「薬剤耐性（AMR）対策アクションプラン2016-2020」を立て、国をあげて様々な専門分野からの画期的な取り組み戦略を打ち出しました。具先生は、臨床感染症専門家としての立場から、医療分野における三つの主たる課題を取り上げてくださいました。第一に、抗菌剤薬適正使用の重要性を訴えられ、第二に、院内感染対策を強化すべく、手指衛生や環境整備の徹底を始め、より効果的な感染対策の実行の必要性を挙げられました。最後に、AMRに関しては医療従事者はもとより、市民教育の充実・促進の必要性を指摘されました。一般市民を対象としたインターネット調査の結果によれば「ウイルスに抗生物質は効果がある」、「風邪やインフルエンザに抗生物質は効果がある」といったように正しく理解していない一般市民が40%を超えることが判明し、抗菌剤についての適切な教育が喫緊の課題であるということが浮き彫りになっています。講演後、具先生には聴講者からの様々な質問が相次ぎ、活発な質疑応答を通して非常に学びの多いセミナーとなりました。

